



BEFORE THE BATTLE DRESS UNIFORM

カモフラ前夜

**アメリカ陸・空軍
フィールド・ジャケット &
ユーティリティ・シャツ**

現在では野戦服兼作業服の主流となったカモフラージュ・ユニフォーム。アメリカ軍での本格導入は1980年からだが、それ以前はオリーブ・グリーンのフィールド・ジャケットや、ユーティリティと呼ばれる作業服が使用されていた。本稿ではアメリカ軍がカモフラージュBDU（戦闘服）を導入する以前に使用していた、空軍および陸軍のユニフォームを紹介してみよう。

Photo/Kunihisa Kobayashi Text/Toshiyuki Kikuzuki Special Thanks/HATENA D5



右胸に縫い付けられた着用者のネーム・テープ。本来ならば左胸には「U.S. AIRFORCE」の文字が入ったテープ（青地に白文字）が付けられるが、写真のジャケットには付いていない。テープは黄色だが、これは装備ストラップに使用されたウェブ（帯布）の流用かもしれない。



両袖に付けられた下士官用階級章。写真は3等軍曹（Staff Sergeant/SSgt）のもので、陸軍では軍曹に相当する階級。縫い付ける際は階級章の中心を、袖の肩口と肘との中間位置に合わせる。

アメリカ空軍 フィールド・ジャケット

JACKET, MAN'S,
SINGLE BRESTED
MIL-J-4883 ●参考商品

空軍のユニフォームといえばフライトジャケットが真っ先に思い浮かぶが、実際には地上要員用のユニフォームも多数存在している。ここで紹介するフィールド・ジャケットもそのひとつだが、ラベルに記された制式名称は「Jacket, MAN'S, SINGLE BRESTED」、すなわち「男性用片前合わせジャケット」と実にシンプルなもの。空軍ユニフォームに関する資料は少なく、このジャケットに関する詳細な情報は見当たらないが、ラベルの表記から1957年頃に採用されたことが窺われる。

空軍フィールド・ジャケットは基本的に陸軍フィールド・ジャケットのデザインを踏襲しているが、布地の色がフライトジャケットやスーツと同じセージ・グリーンとなっているのが特徴。また裾のポケットがパッチ式（陸軍フィールド・ジャケットはフラップの付いたスリット式）となっている点も異なる。



ラベル

ラベルはフライトジャケットに見られる織り文字式のタイプで、いかにも空軍の装備。スペック（仕様）がMIL-J-4883で、一番初めに制定されたタイプ。メーカー名の上の年月日は軍との契約の日付で1957年会計年度の発注分。



襟の内側にはフードが収納される。角の丸い襟と内蔵式フードはM1965フィールド・ジャケットでお馴染みのものだが、実際には空軍フィールド・ジャケットの方が先。ただし、フードにはドロコードが通されていない。



空軍では独自のフィールド・ジャケットだけでなく、M1965フィールド・ジャケットも使用した。写真はドイツのライン・マイン基地における空軍憲兵隊の訓練風景で、1980年の撮影。（Photo: U.S.A.F.）



ジャケットの腰にはドロコードが通されているが、これは腰を絞って風の侵入を防ぐためのもの。陸軍のM1951およびM1965フィールド・ジャケットでは裾にもドロコードが通されているが、空軍ジャケットでは腰のみとなっている。

内蔵式フード

襟にはドロコード（引き絞りヒモ）が通されており、襟を立てて前を閉じる際に使用する。ちなみに陸軍フィールド・ジャケットの場合はタブとボタン（M1965の場合はベルクロ・テープ）で閉じるデザインが使用されていた。



ドロコード

同時期に陸軍が使用したM1951フィールド・ジャケットでは腰部ドロコードが外側に出ているのに対し、空軍ジャケットでは内側から出ている。また陸軍のM1951ではコードを通す穴がかがり穴なのに対し、空軍FJでは補強を兼ねた革製のパッチを使用。



ジャケット裏側には表地（コットン・サテン）と異なるコットン生地（オックスフォード）の内張り付き。写真のジャケットではその多くが欠損しているが、ライナー装着用のボタンが前身頃と襟元に付けられた。ライナーに関しては詳細不明。

HEART ROCK

2ND 2011

F.O.B SNAPS!!!

ハートロックご参加の皆さん、お疲れ様でした！そしてコンバットマガジンブースにて撮影に協力してくれた方々ありがとうございます。そんな方々の華麗な勇姿をおさめたストリートスナップならぬ「F.O.B SNAPS!!!」張り切ってスタートでございます。

PHOTO : Taku
TEXT : fujiwara



PICK-UP PLAYER
能勢 尊紀
所属：なし
装備テーマ：現地PMC
好きなミリタリーブランド：LBT

[fujiwaraのポイント]
今回のイベントでPMCは比較的自由に装備をチョイスできる唯一のチーム。全体的には皆さん手堅く決めてきたなっていう印象ですが、彼のような官給品LC-2をワンポイントで使ってくるあたりに意外な面白さを感じました。

02.

SURPLUS SHOP

常連さん? いえいえファントムのベテラン兵3人です。左からマネージャーの山崎さん、スタッフの高藤さん、そして代表の千葉さん。ジーンズショップ以上にフレンドリーな雰囲気心がけてます、という千葉さんの言葉どおり、誰でも入りやすいお店づくりはファントム各店の共通テーマだ。



PHANTOM

ファントム 東久留米店

Shop Data

⑨東京都東久留米市下里3-1-15
☎0424-74-2865
営業11:00~20:00 年中無休
http://www.phantom-web.com/

珍品

スウェーデン軍救急BOX

価格 ¥3,990

こちらは非常に珍しいスウェーデン軍実物のメディカルBOX。薬以外にも小物の収納に重宝するサイズ。さりげなくミリタリー好きをアピールする格好のアイテム。



実物

UKランドローバースコップ

価格 ¥2,100

英国特殊空挺部隊SASの機動車としても知られる軍用ランドローバーに搭載するスコップがコレ。もちろん実物放出品。英軍装備品には全て“ブロードアロー”と呼ばれるイギリス政府官給品を示す「↑」マークが付いており、このスコップにももちろんその証が見て取れる。塹壕掘りはもちろん、泥濘地での脱出でも役立つオフロードの必需品!



USボンチョライナー

価格 ¥6,825

米軍仕様のボンチョは簡易テント、シュラフ(スリーピングバッグ)としても使用可能な作りになっており、こちらのボンチョライナーはボンチョをシュラフとして使用する際にのみ用いるアイテム。コレを使うことで簡易寝袋を作れる便利な一品だ。



掘り出し

定番

USスリーピングマット 価格 ¥3,675

米軍民生品ウレタンフォーム製のスリーピングマット。水を吸い込まないクロズドセルフォームのマットで、寝袋の下に敷くことで、空気の層が地面からの湿気や冷気を防ぎ、快適な眠りをサポートしてくれる。明日の戦いに備える兵士には欠かせないアイテムだ。厚さ8mmで保温性、寝心地はバツグン。サイズは縦195×横60cm。

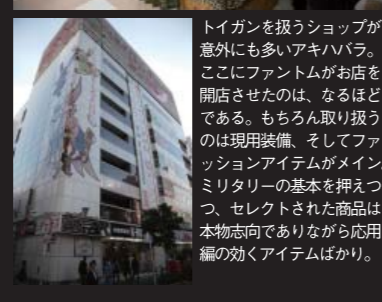
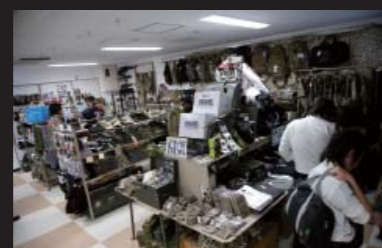
US GIソックス

価格 ¥840

ウール混でこれからの寒い季節にピッタリなソックス。GI(ガバメント・イシュー)の名が示すように軍用ブーツを履いての長距離行軍に対応したクッション性を持たせた厚地のソックスで、もちろん各種ブーツにも相性ピッタリ。

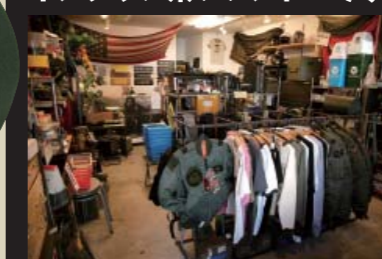


オタクもカモン! な秋葉原店ついに始動



トイガンを扱うショップが意外にも多いアキハバラ。ここにファントムがお店を開店させたのは、なるほどである。もちろん取り扱うのは現用装備、そしてファッションアイテムがメイン。ミリタリーの基本を押えつつ、セレクトされた商品は本物志向でありながら応用種のおくアイテムばかり。

カフェ? いえいえこちらはインテリア系ファントムです



横田基地近くにオープンした「D-GARAGE」はインテリア小物を主力としたいわばミリタリーオフスタイルのお店。具体的には工具BOXや家具など米軍払い下げでも日常で使えるモノをセレクト。まさにアメリカの基地周辺にありそうなあたらしいコンセプトショップである。場所は横田基地の2ndゲートの近く。



US WOOL ファンガーレスグローブ

価格 ¥1,260

米軍で使用されている軍手。一般的なウールの手袋よりも若干固めの質感で作業、防寒用で使用されているものの指先をカットしたタイプとなっている。防寒性を保ちながら指先の細かな感覚を求められる作業にも適している。手の甲のプリントはサイズや軍用表記の詳細。

「ファントム」というショップのイメージは、サープラスというよりも、現用装備やオリジナルグッズを取り扱っている印象が強い。いうなれば、現用装備をメインに扱ったミリタリーショップだろう。そのイメージ通り、店内には現用装備関連グッズやオリジナル商品が目立つ。だが、実は現用品だけでなく、サープラス品なども数多く取り扱っている。あまり表立って宣伝していないために知られていないが、本格的なサープラスショップでもあるのだ。

コアなマニア向けのサープラスショップに比べると、店内はオシャレな作りになっているため、ミリ臭は少ないかもしれないが、扱っているものはほとんどがミリタリーということからも、本格派ショップなのは確かだ。

東京都内に複数の店を構えるファントムでは、店舗のある立地の雰囲気に合わせて、扱う商品や店内の作りを変えている。したがって、同じファントムであっても、店舗によって雰囲気は異なる。

ファントムでは、これまでの東久留米店、横田店、渋谷店、大阪店に加えて、10月末に、オタクの街である秋葉原へ新店舗をオープンした。ミリタリーの基本的な部分は踏まえつつ、秋葉原の街に合わせた店作りを行うところは、さすがファントムだ。

その他にも、横田基地近くにミリタリーのBOXやツールなどを扱う「D-GARAGE(ディーガレッジ)」をオープンするなど、新しい試みに取り組んでいる。この店舗では、衣類ではなく、ミリタリーで使用されている大型のBOXや小物など、これまでとは一風変わったサープラス品を扱っており、店名同様、ファントムとはコンセプトから違う。

現状で満足せず、絶えず新しい試みにチャレンジするファントムは、我々ユーザーを飽きさせることのないミリタリーショップなのだ。



売る気がまったく感じられない(笑)。レジ後方に並ぶフライトジャケットの名品たち。数奇者なら店内のディスプレイにも注目されたし。

SHOP展開に異変あり! ますますふくらむファントムワールド



東久留米店の雰囲気はこんな感じ。気分のいいカジュアル、よく見れば洒落の効いたミリタリー、これがファントム東久留米店流セレクトなのだ。

HOW TO EAT

"MRE (MEAL READY-TO EAT)" アメリカ軍作戦レーションMREの食べ方

数あるレーションの中でもっとも充実、かつ機能的とされるMRE。1981年の導入から内容物に改善を加え、現在では24のメニューが存在している。ここでは2002年発注分のメニュー9を例に取り、その食べ方を紹介してみよう。

Photo/WPP Text/Toshiyuki Kikuzuki

MREはベトナム戦争中に使用されたMCI (Meal, Combat, Individual。一般にレーションとも呼ばれた)に代わる作戦行動中の兵士用のレーションとして開発されたもので、その用途は組織化された給養施設の設営が不可能な場合の使用とされている。MCI後継レーションの開発は1960年代後半からスタートし、調理済み食品の保存のため放射線照射やフリーズドライ等の処理が検討されたが、最終的には食品をパウチに詰めて殺菌するレトルト・パウチが採用される。ただしレトルトパウチの開発等の問題から、その調達開始は1981年まで待たなければならなかった。

MREは1パックに一食分の食事が収められており、その内容は①アントレ又はスターチ、②クラッカー、③スプレッド類(チーズ、ピーナッツ・バター、ジャム又はジェリー)、④デザート/スナック、⑤飲料、⑥アクセサリ・ポケット、⑦プラスチック製スプーン、⑧無炎式レーション・ヒーター(FRH。水を少量そそいで発熱させる使い捨てのもの)から構成。各パックは軽量、かつコンパクトであることを重視して開発されたもので、MREの各メニューは平均1250kcalとなっている。

MREが大きな転機を迎えたのは1991年の湾岸戦争で、その際の教訓はMREの内

容にフィードバックされることになった。1993年からFRHが各レーションに付属するようになり、内容物およびメニューの改善が図られ、'96年版のMRE16(数字は調達回数で、最初の調達から16番目。なお、軍正規の表記はローマ数字)ではメニュー内訳が従来の12種類から16種類に増加。そして'97年版のMRE17では20種類、'98年版のMRE18で24種類に増やされ、一般的なアメリカ食のほかにエスニック風料理や、最近の風潮にあわせてベジタリアン(菜食主義者)向けも設定されている。

喫食の可否は ここで見分ける TTIラベル

レーションは市販食品より保存期間が長いですが、保管状況によっては劣化が早くなるのは避けられず、場合によっては支給された時点で喫食不可ということも。この問題を解決するため、保存状況をひと目で識別できるようにしたのがTTIラベル(Time-Temperature Indicator Labels)だ。TTIラベルは外側のリファレンス・リングと内側のインナー・サークルから構成されるもので、インナー・サークルは時間の経過によって暗くなる。また、温度が高ければその分だけ早く暗くなるため、ラベルを見ればレーションの状態が判断可能。これによって在庫管理が容易となる利点があり、現在はMREのケースの底に貼り付けられている。



Photo : Department of Defense

MREは計24種類のメニューが2ケース(ケースA&B)に分けて梱包されている。ケースAにはメニュー1~12、ケースBにはメニュー13~24を収納。



MREの保存期間は27°Cで最低3年、もしくは38°Cで6ヶ月とされている。しかし、保存状態が悪ければ消費期限はさらに短くなる。それを判定するのはケース底部に貼り付けられたTTIラベルで、そのコストは僅か1枚3セント(現行のレートで3円以下)。

1ケースにはMREのパック12個を収納。ベジタリアン(菜食主義者)メニューはケースAとBにそれぞれ二種類ずつ梱包されている。ベジタリアン食は1996年に導入されたものだが、兵士の人気は今ひとつか。



パックの開封

採用当初からパックの開封にはナイフ等が必要としたが、現在では手で開封が可能のように改善されている。

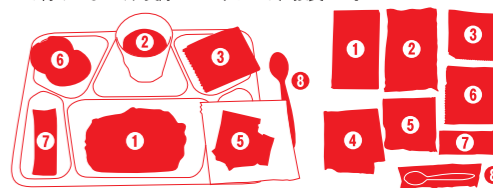
MREの梱包に厚手のプラスチック(ビニール)を使用。パックのフィルムは三層構造で、保温性がある。採用当初は濃い茶色だったが、'96年にベージュに変更された。



内容物一覧

MENU 9 ビーフシチュー

MREはメイン料理に付け合わせ、パン類、スプレッド、デザート、飲料等で1食分を構成する。内容物は毎年見直しが行なわれ、年度によって構成アイテムは変化している。2002年版メニュー9の内訳は①ビーフシチュー、②バニラ・シェイク、③ベジタブル・クラッカー、④MREヒーター、⑤アクセサリ・ポケット、⑥M&Mクッキー、⑦チーズ・スプレッド⑧スプーン。下写真は食事の内容が判るようにメス・トレーに盛り付けたもので、実際にはパックから直接食べる。



喫食には何が必要？

MREを食べるのに必要なものは飲料用とヒーター用の水で平均23オンス(約650cc)だ。兵士が携行する水筒は容量が1クォート(946cc)なので、水筒1個で1食分をまかなうことが可能。またMREにはスプーンが付属しており、レトルトパックから直接食べるため、野戦用の食器類は一切必要としない。



兵士が携行する野戦用装備の水筒。水筒はカバー、水筒本体、カップから構成され、兵士は通常2個の水筒を携行している。